

# 名匠成瀬巳喜男監督と工学院



(電気工学科・1971卒) 古澤 良夫

今から25年ほど前、我家が高架鉄道開通の影響でテレビの難視聴区域に指定された。それがきっかけで、ケーブルテレビに加入して映画や紀行番組など様々なチャンネルを観るようになった。初めのうちは物珍しさもあってそれなりに楽しんでいたが、ほどなくして繰り返しの多い内容に飽きて、洋画チャンネルに1本化して現在に至っている。

しかし、最近時間に余裕がでてきたせいも、当時観た映画で強く印象に残っていた3本の邦画を、もう一度観たいと無性に思うようになってきた。1本の題名は「浮雲」だが、他の2本の題名は思い出せなかった。

そこで、出演者の名を頼りに探り当てた結果、題名は「乱れる」と「稲妻」だった。意外だったのは、3本とも既にDVDが存在していたことだった。当初、タイトルがわかったら都内の名画座の上映予定を気長に待って、見つけ出せばいいかなと考えていた。なにしろ3本とも60年以上前の白黒映画なのだ。まさか、DVD化されているとは全く想定していなかった。

更に意外だったのは、3本とも監督は成瀬巳喜男だったこと。「浮雲」の監督は成瀬巳喜男であることは承知していたが、他の2作の監督名までは把握していなかった。また、成瀬巳喜男自身についても、さほど関心があったわけでもない。しかし、数十本以上観た邦画の中で、もう一度観たいと思った作品の監督がすべて成瀬巳喜男だったことで、俄然、成瀬監督への関心が高まった。

さっそくいろいろ調べてみると、成瀬巳喜男は、黒澤明、小津安二郎、溝口健二に並ぶ、日本映画の4大名匠といわれる監督の一人であったこと。特に「浮雲」は、上映された1955年度のキネマ旬報、ブルーリボン賞、その他数々の賞を総なめにした作品であったこと。そして、その作品は現在でも内外の映画人による選評で、常に上位にランキングされている等々。その事実を知り、自分の知識のなさにいささか恥じ入ってしまった。しかし、何よりも驚いたのは、彼の経歴に目が

いった時である。思わず「おお!」と声が出た。

《1905年（明治38年）、四谷に刺繍職人の次男として生まれ、1920年（大正9年）、父の死にともない、当時通学していた「工手学校」（現工学院大学）を退学して、知人の紹介で松竹撮影所に小道具係として採用された》と記載されていた。なんと、工学院にゆかりのある人物だったのだ。

文化・文芸の世界に名を成した人物が、まさか工業学校である工手学校に通学していたことを意外に思うとともに、多くの映画監督の中で、自分が特に関心を抱いた人物が校友だったことに感慨深いものがあった。この事は校友の間ではすでに周知のことかもしれないが、私にとっては思いがけない発見で、成瀬巳喜男に親近感を強く感じた。

成瀬監督は4人の名匠のひとりとして名を連ねているが、他の3人の監督ほど知名度は高くないと、多くの出典で指摘されている。要約すると、他の3人は早くから国際的な賞を受賞したことで、一般人にも広く名前が知れ渡ったこと。また、成瀬作品には市井の女性を主人公にした作品が多く、内容もドラマチックとは言え



寡黙な人柄だった成瀬巳喜男監督（筆者作）

ず、黒澤明の映画のようなダイナミックさがないこと。そうした作風が、広い世代の人たちに受け入れられなかった云々。確かにそういう側面はあろうかと思う。

一方でそうした指摘の後段では、成瀬監督の巧みな演出技術を必ず高く評価している。かつて小津安二郎は畏敬を込めて「自分には成瀬のような作品は作れない」と言ったといわれている。また「黒澤明は成瀬監督を尊敬していた」との関係者の発言もあった。現在でも映画人の間では「映画製作を志している者は、成瀬作品をまず観て、演出の基礎を習得すべき」と発言している人もいる。こうした記述を目にすると、実に誇らしく喜ばしい限りだ。

知名度が低いと言われても、ネットでは熱烈な成瀬ファンのサイトが複数ある。また、成瀬監督の生誕100周年及び110周年では、内外で盛大に記念イベントが開催されたという。3年後の120周年の催しにも、ますます多くのファンが関心を寄せるだろうと思っている。

さて、肝心の3本の映画についてだが、DVDの購入を検討している時に、若い友人から「アマゾンプライム・ビデオ」の利用を教えてもらった。なんと旧作の邦画も観られるとのことだった。アマゾンなど動画配信サービスのことは知ってはいたが、若者向けのコンテンツを扱っているものと思い込んでいたので、まさに目から鱗だった。幸い、買い換えたテレビはインターネットに対応している。早速「プライム・ビデオ」を利用してみて驚いた。ほとんど全てのジャンルの映画が、廉価で、あるいは無料で観ることができるのだ。勿論、成瀬監督の主要な作品は、戦前のものからほとんど全て存在していた。自宅に居ながらにして、大画面で好きな映画をいつでも観ることができる。新たな至福の時を手に入れることができ、大いに満足だった。

まだ、全ての成瀬作品を観てはいないが、おかげで「浮雲」に勝るとも劣らない、いくつかの名作に出会うことができた。これからも、校友の成瀬巳喜男にますます傾倒していくことに、ささやかな喜びを感じている今日この頃である。

## 【追記】 成瀬巳喜男の経歴と代表作

成瀬巳喜男は小道具係として松竹に入社して、わずか2年足らずで演出の仕事に就けましたが、その後の下

積み期間は長く、後輩の小津安二郎らに先を越されながら、結局10年かかって監督になりました。しかし、監督になってもあまり厚遇されず、自ら企画した映画もなかなか撮らせてもらえなかったようです。

そうした鬱々とした状況を打開するため、東宝の前身であるピー・シー・エル・映画製作所（P.C.L）に移籍しました。P.C.Lでは順調に実績を上げていったことが窺えます。1935年に公開された「妻よ薔薇のやうに」は、日本で大賞を受賞した後にニューヨークで封切られ、アメリカで興行上映された最初の日本映画となったことは特筆に値します。

その後、戦前戦後の低迷期を経て、1951年に公開された原節子と上原謙主演の「めし」が高い評価を受けました。それを契機に数々の名作を撮り続け、生涯で87作の映画を製作し、1969年に63歳で亡くなりました。

没後10年以上経った1983年、スイスの国際映画祭で回顧展が開催されたのを機に、成瀬巳喜男の名は一躍世界に知られることとなりました。そして、いつの頃からか、国内外で成瀬巳喜男は、黒澤明、小津安二郎、溝口健二に次ぐ、日本の「第4の名匠」と呼ばれるようになったとのことでした。

（参考 キネマ旬報）

ご参考までに、成瀬監督の数多い傑作の中から、多くの人に支持されている作品を、以下にご紹介させていただきます。折を見てご覧いただければ幸いです。

作品名	公開年	主な出演者
・「めし」	（1951年）	原 節子 上原 謙
・「稲妻」	（1952年）	高峰秀子 浦辺条子
・「山の音」	（1954年）	原 節子 山村 聡
・「浮雲」	（1955年）	高峰秀子 森 雅之
・「流れる」	（1956年）	田中絹代 山田五十鈴
・「驟雨」	（1956年）	原 節子 佐野周二
・「乱れる」	（1964年）	高峰秀子 加山雄三
・「乱れ雲」	（1967年）	司 葉子 加山雄三



不実な男との哀切極まる恋愛を描いた代表作「浮雲」

# 鴫村(ときとむら) 開拓史のまとめ



(工業化学科・1978卒) 成田 忠志

コロナの影響で自宅待機が続いた中、本家の従兄から預かっていた成田一族の過去帳を基に、直系の先祖である成田万九郎が陸中国鹿角郡鴫村(りくちゅうこくかづのごおりときとむら)を開拓した鴫村開拓史をまとめています。鴫村は、現在の秋田県鹿角郡小坂町上向字上鴫にあり、十和田湖の西側です。

私の祖父万蔵は、鴫村を開拓した成田万九郎の子孫で、祖父母宅には子どもの時に遊びに行き囲炉裏の周りで食事をした事を思い出します。

従兄から過去帳を預かったのは昭和40年代だったかと思いますが、その当時私は考古学に興味を持ち鹿角郡内の発掘調査を手伝っていましたので、従兄はそういう私にご先祖様や一族の事を調査して欲しいとの思いがあったのでしょうか。

菩提寺が一度消失したので古い事は不明ですが、過去帳で一番古い万九郎は享保9年(1724年)没ですが、万九郎名が7代続き、その後万兵衛(大正12年1923年没)、祖父万蔵(昭和31年1956年没)など現在の当主まで7代が続いております。

家伝では、安土桃山時代頃に大地村(だいじむら)の成田甚之丞重盛(じんのじょうしげもり)から分家したと言われておりますので、永禄元年(1558年)か天正元年(1576年)頃に大地村から鴫の地に移り、その後屋号水坂(すぎか)家、助七家、九郎兵衛家の分家3家を中心に村を作りあげたようです。

分家の九郎兵衛家は初代からの名前は残っておりますが、水坂家と助七家の系図が分かりませんでした。十数年くらい前に本家に寄り、伯母の実家宮館家に江戸時代の古文書が43通ある事が分かり、そのコピーを私の所属する八千代市歴史研究会の先輩達に読み解いて頂き、江戸時代の鴫村の人々の名前や動きが少し見えてきました。これらの古文書と鹿角市史や小坂町史の記載を合わせて開拓史としてまとめています。

村名が「鴫(ときと)村」となっていますが、これは「鴫たち」という意味で群生した事を示すと記載されています。このため表題を「朱鷺が舞う里 陸中国

鹿角郡鴫村開拓史」と名付けております。

鹿角郡は天正18年(1590年)に豊臣秀吉によって南部信直に領知として与えられ、明治維新まで南部藩に含まれます。

江戸時代の南部藩の歴史を見ると冷害による被害が数十度あったとの記録もありますが、このような時には少しの米と稗、粟などの穀類や味噌、山菜などでかろうじて生き延びてきたようです。

この鹿角郡は、現在の埼玉県熊谷市にある成田郷に住んでいた武蔵成田家七代目惣領の成田助綱(すけつな)が文治5年(1189年)に源頼朝に従って奥州平泉の藤原泰衡(やすひら)や弟の義経を攻めて滅ぼしますが、この時に郡地頭の成田助綱のもとに成田・奈良・安保・秋元の四氏が村地頭として派遣されております。

鎌倉時代や室町時代の古文書が故郷鹿角には少ない事から、現在地元八千代市の中央図書館に通い吾妻鏡を初めとして鎌倉武士、足利一族などの記録から武蔵成田一族や鹿角成田一族の流れを時代ごとに読み解いております。

万九郎家の家訓として「和合」という言葉を残しております。「和合」というのは一族のみならず隣接する人々とも助け合っていきなさいという指針を示していると思いますが、大家族の崩壊で核家族化した現在では死語になってしまった言葉かもしれません。ご先祖様の生き様を、一族の人達に冊子として残したいと考えております。

## 【新型コロナウイルス対策 学生・生徒支援募金】

学園では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により経済的に困窮した学生・生徒の就学継続のための募金を広く募り、令和2年5月から令和3年11月末日までの期間中に、延べ453名、42団体のから総額36,665,550円の募金が集まりました。(学園ホームページ：R3.12.1理事長挨拶より引用)

学園ではコロナ禍によって家計収入の大幅な減少や学費の支弁が困難となっている学生・生徒に、応急給付奨学金、緊急支援奨学金等の支援を実施しました。この支援により、学生・生徒が直面していた困難な状況は改善されつつあり、現在も学園では支援を継続していますが、学園会計の範囲で賄える見込みとなったため、令和3年11月末日をもって、当面の間、この募金

活動を中断しています。

支援実績は、応急給付奨学金（学生生活支援金）受給実績283名、緊急支援奨学金（学費減免）減免実績162名、Wi-Fi機器レンタル利用実績91名、パソコンレンタル利用実績194名等の他、様々な学習環境等の整備を行っています。

千葉県支部では、令和2年度に続き、令和3年度も皆様にお納めいただいた年会費等の中から募金に協力し、ささやかではありましたが、通算で10万円の募金をしましたのでご報告申し上げます。

また、個人でも協力して下さった方々に対しても厚く御礼申し上げます。

## 【学生プロジェクトの活躍】

現在、大学には13の学生プロジェクトがあります。プロジェクト名をご紹介しますと、①学生フォーミュラ（工学院大学レーシングチーム）②KRP（工学院大学ロボットプロジェクト）③工学院大学ソーラーチーム④鳥人間（Birdman Project Wendy）⑤Science Create Project（子供向け科学教室）⑥エコランプロジェクト⑦みつばちプロジェクト⑧WA-K.pro⑨KogCoder（競技プログラミングチーム）⑩モデルロケットプロジェクト⑪Social Data Analysis Laboratory⑫まち開発プロジェクト-Smart Tech-⑬VRプロジェクトの13団体です。

大学にはスポーツ系27部と文化系15部のクラブもあり、それぞれ体育会と文化会として部活動を行っていますが、学生プロジェクトは、学園が審査のうえ採用された「学生プロジェクト」に対し、大学から施設・設備の提供や活動費の補助を受け、学生グループによる自主的・能動的な理工学に関する創造活動を通して学生の創造性とリーダーシップを育み、人間としての成長を促進させることを目的とした活動である点が体育会と文化会の活動と違うところです。

体育会、文化会等の部活動と同様に学生プロジェクトも、コロナ禍で活動が制限される中、伊藤学長に「2021年度に同時に4つもの学生プロジェクトが、高校野球に例えるなら甲子園出場に匹敵する快挙を成し遂

げた」と言わしめた4プロジェクトの活躍を紹介します。

### 学生フォーミュラ(KRT工学院大学レーシングチーム)



学生フォーミュラプロジェクトは2004年に発足。フォーミュラマシンの設計・製作からチームの運営まで全てを学生が行っており、その経験の中で実践的な知識・技術の向上、及びマネジメントや製作管理、コスト管理を実際に経験することによって、ものづくりの基礎やエンジニアとしての思考を学ぶことを目的として活動している。KRTは発足翌年の2005年から全日本学生フォーミュラ大会に毎年出場した実績を持つ。2021年の第19回大会にはエンジン車と電気自動車（EV）合わせて72チームが参戦した。あいにく、コロナ禍の影響で動的審査は中止となったが、その代替と

# 母校の近況

して公的記録会が実施された。

静的審査:日本自動車工業会会長賞を受賞（全ての静的審査に参加し、書類遅延ペナルティーが無かった29チームが受賞した）

公式記録会:エコパ（静岡県 小笠山総合運動公園）にて2021年10月31日実施）



## 鳥人間（Birdman Project Wendy）

鳥人間コンテスト2021出場 滋賀県の琵琶湖畔で2021年8月1日に開催。

チーム結成20周年を迎えた2021年、全長27.6mの主翼に風を受けてチームとしては13年ぶりに人力プロペラ機部門で定常飛行に成功し、418.90mの記録を残した。B.P. Wendyは、読売テレビが毎年夏に放送している「鳥人間コンテスト」に出場するために立ち上げたプロジェクトで、今回は、約3年かけて完成させた「かささぎⅡ」で参戦した。機体作製に当たっては、プロジェクト顧問で流体力学を専門とする水野明哲元学長のアドバイスを受けながら、学生達自らが設計し、学内の「ものづくり支援センター」の工作機械を使って完成させた。前回はコロナ禍で開催中止となったが、今回は無観客での開催ではあったが、B.P. Wendyの戦況と活動ぶりはテレビでも放映された。



## 工学院大学ソーラーチーム



「100年後の未来を考えた地球の持続的利用」を理念に掲げる学生プロジェクトで、車両の開発・設計・製作、レースでの走行、スポンサー獲得の全てを学生主体で行っている。産学連携で次世代モビリティの研究から、レースでの実践までを一貫して行うことで、クリーンエネルギー分野の技術革新・社会実装に取り組んでおり、国内のみならず、海外の大会でも注目を集めている。

ワールド・グリーン・チャレンジ（WGC）は国内最大のソーラーカー耐久レースで、秋田県大潟村の専用コース（大潟村ソーラースポーツライン）で毎年行われている。レースは3日間、計25時間でのコースの周回数を競うもので、レース中は太陽電池以外からは充電禁止となっている。専用コースは1周25kmだが、今回はコロナ禍の影響でレース期間が2日間に短縮され、しかもレース2日目は朝からの土砂降りで開始時間が約4時間も遅れ、コースも1周6kmのコースに変更、最大速度も時速60kmに制限された中でのレースとなった。急なコース変更で、全長5mの車体が折り返し地点のコーナーを曲がり切れず、苦戦しながらもチャレンジャークラスの準優勝を獲得した。今年のWGC2022の優勝、そして2023年のオーストラリアでの世界大会、ブリヂストンワールドソーラーチャレンジでの優勝を目指して頑張っている。



高齢者川柳

新株を

買ったときや良かった

オミクロン？

## KRP（工学院大学ロボットプロジェクト）

「学生ロボコン」に参加して優勝することを目的に、2000年に発足したKRP。

1991年から日本全国の大学が参加するロボットコンテストとして「NHK大学ロボコン」が始まり、その後、2015年からは高専や大学校も出場できるようになって大会名称が「NHK学生ロボコン」に改められた。これに出場するには、書類選考、第1次ビデオ審査、第2次ビデオ審査という3段階の厳しい審査に合格して初めて出場権を得ることができる。そして、見事審査を通過したおよそ20チームが、毎年変わる競技課題に対し、与えられた競技ルールの範囲内でアイデアとチームワ

ークを駆使して競う。優勝したチームは日本代表として、世界大会「ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト（ABUロボコン）」へ出場することとなる。KRPのメンバーは機構と制御の2部門に分かれ、ロボットの設計・製作・プログラミングのすべてを学生自身で行う。実は2018年と2019年は審査に合格することができず、2020年はコロナ禍で大会が中止となったため、4年振りの出場となったが、国際大会（ABUロボコン）が始まった2002年以降では、19大会中16回出場の常連校なのだ。残念ながら「NHK学生ロボコン2021」は出場を果たしたものの、千葉大との対戦に敗れ予選敗退。しかし、東京エレクトロン(株)より特別賞を受賞した。



## 高齢者川柳とあけのちからぬ我柳コーナー

アマエビに 疫病封じの 効果あり？  
 「アーン」して 孫にしてたら 今じゃ逆  
 顎マスク 額メガネに 入れ歯どこ？  
 エイサクと 言えば吉田 いや佐藤  
 ユーサクと 言えば前澤 いや松田  
 階段を そろそろ二階 何故ここに？  
 コロナ禍の ファッション見事 パリミラノ  
 妻子いて 孫も多々いて 不足なし  
 ジーローと 孫かと思えば 蟬の声  
 してみたい 濃厚接触 アラフォーと  
 勝負服 今日の内科の 診察日  
 川柳で 人生の機微 広がりぬ  
 体重計 片足乗りなら 変わるかも？  
 妻温泉 オレ施設で 犬ホテル  
 なおらない 寝ぐせ酒ぐせ 女ぐせ  
 値上げ値上げ 音を上げません 飯に目刺し  
 フリーズせず WHY冷凍品 値上げの春  
 耳遠く 空気を読んで 空笑い  
 リハビリに 励まん八十路 未だ若い  
 路上ゴミ マスクだらけや 至る所

菅稚貝  
 那佐家邦志  
 研坊翔  
 無可信仁  
 無可信仁  
 寺岡光二  
 寺岡光二  
 寺岡光二  
 宇津聖和  
 江呂翁三  
 植木幸裕  
 寺岡光二  
 孫名琴内  
 樋上親治  
 名尾羅内  
 井坂隆一  
 井坂隆一  
 井坂隆一  
 植木幸裕  
 寺岡光二  
 井坂隆一

今年も恒例の千葉県支部新年会が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け中止となり、会場で高齢者川柳をしたためて頂けませんでした。紙と鉛筆さえあれば、時と場所を選ばずに楽しめます。「頭の体操には効果抜群！」の川柳を作って是非投稿してください。実名で出すのが恥ずかしいという方はペンネームを添えてください。

ご投稿は、chiba@kogakun.or.jp までメールまたは、年会費払込取扱票の通信欄に記載してください。結構です。ただし、採用されても何も出ませんので、ただ一人ニンマリしてください。

# ☆☆☆千葉県支部会員の皆様に御礼とお願い☆☆☆

千葉県支部は下記の方々の多くで支えられています。ありがとうございます。これからもご支援、ご協力をお願いします。  
令和3年度会費納入者ご氏名（合計 ¥114,000） 敬称を省略させていただきます。

東 雄二	新井英伸	飯島康順	井坂隆一	伊野卓幸	岩本博行	植木幸裕	内山 太	大嶋茂幸
小川達也	岡村瑩哉	小高英二	菊田征平	來住康弘	黒沢健治	近藤利夫	佐藤研一	佐藤正吾
佐藤昌志	塩原 清	篠 欣克	新海昌美	高嶋賢一	武谷孝生	塚田湧長	寺岡光二	長島 滸
成田忠志	長谷川 努	原田鉄司	原田 寛	藤田純一	古澤良夫	町山和人	松原征志	松本 茂
横田 仁	吉村 征							

令和3年度ご寄付を頂いた方々（合計 ¥55,000） 敬称を省略させていただきます。

東 雄二	井坂隆一	植木幸裕	内山 太	大嶋茂幸	菊田征平	佐藤正吾	佐藤昌志	塩原 清
篠 欣克	新海昌美	武谷孝生	寺岡光二	長島 滸	長谷川 努	古澤良夫	町山和人	横田 仁

令和3年度千葉県支部報告会兼意見交換会は新型コロナウイルス感染拡大のため、中止とさせていただきます。

## 2022年度 千葉県支部役員名簿

役職	氏名	学科	卒年	担当
支部長	横田 仁	機械	1973	会報
副支部長	新海 昌美	電気	1970	HP
会計	植木 幸裕	機械	1975	名簿
幹事	岩本 博行	化学	1969	広報
幹事	古澤 良夫	電気	1971	総務
幹事	長谷川 努	電気	1971	広報
幹事	井坂 隆一	機械	1975	会報
幹事	小高 英二	化学	1985	広報
幹事	小川 達也	化学	1987	事業
幹事	新井 英伸	電気	1991	事業
会計監査	成田 忠志	化学	1978	
顧問	佐藤 正吾	建築	1960	
顧問	寺岡 光二	機械	1961	
顧問	武谷 孝生	化学	1964	

## 会報発行継続に皆様の絶大なご支援を!!

26回目となる千葉県支部会報を今年もお届けすることができました。この会報は、全国の校友とも手を携え、共に活性化して行こうということを目的に毎年1回発行しています。

衰えることを知らない新型コロナウイルスの波状攻撃も3年目に入り、2年続けての支部活動の停滞は非常に残念なことです。その様な状況下で、千葉県支部として皆様から頂戴した会費の中から学園が応募した「新型コロナウイルス対策 学生・生徒支援募金」に、昨年度も寄付をさせていただきました。

この会報が皆様のお手元に届く頃には、コロナの脅威も下火となっていることを祈りつつ、以前のような活動を通じて会員相互の親睦を深め、仕事や趣味などの面でも協力し合える環境を提供し、そしてこれらの活動の楽しさ、すばらしさと共に母校の近況等もお伝えして行こうと思います。

この様な情報誌である会報発行に是非ご支援をお願い致します。

千葉県支部の活動は会員各位の会費や寄付金等で賄われています。2022年度の会費、そしてもし頂けるのであればご寄付も合わせて同封の払込取扱票による納入をお願い致します。また、高齢者川柳を募集しますので、払込取扱票の通信欄に記載してご投稿ください。

年会費：3,000円      ご寄付：任意

## § 編集後記 §

本年も昨年、一昨年と同様に、新型コロナウイルス感染症のため一度も顔を合わせることなく、メールで原稿、資料、写真のやり取りを行うことになってしまいました。毎年千葉県支部で開催していた楽しい催しは全くできませんでしたが、多くの方に投稿していただいて、会報を充実することができたかなと思っています。

学生さんたちの生活は我々以上に大変だったでしょう。学園には令和2年5月から令和3年11月までの間に3,666万円余りの寄付が集まりました。千葉県支部は令和2,3年に計10万円の寄付を行いました。早く普通の学園生活が戻ることを願うばかりです。

今年度もいろいろなことがありましたね。まず、会報No.24に寄稿していただいた、千葉県出身の三遊亭美るく改め三遊亭律歌さんが令和4年3月に真打に昇進したことです。おめでとうございます。他にはMLBの大谷翔平選手の活躍、東京オリ・パラと北京オリ・パラの開催、食品・日用品の値上げそしてウクライナへのロシアの侵攻などです。大谷翔平選手が二刀流で大活躍を見せました。46ホームラン&100打点&26盗塁、9勝、防御率3.18&156奪三振でした。ケガだけが心配です。コロナ禍での東京オリ・パラの開催は良かったのでしょうか。終わってみると、あまり話題にならなくなってしまったように感じますが、これは私だけの感想？ウクライナへ本当にロシアが侵攻するとは思っていませんでした。何万人も死んでいるのです。早く早く戦争が終わることを願うばかりです。

会報をお読みの千葉県支部の皆様、全国の皆様、今年も体調管理に十分気を付けて下さい。そして、どうぞ来年も会報を手にとって頂きたいと宜しくお願い申し上げます。

文責 会報担当（機械工学科・1975卒）井坂 隆一